

令和 7 年度第 2 回堺市中区政策会議 会議録

日 時：令和 7 年 9 月 29 日（月曜） 19 時 00 分から 21 時 00 分まで

場 所：堺市 中区役所 4 階 大会議室

出席者：【構成員】（敬称略）伊藤久美子、今西千晶、今村憲一、太田佳世、金澤正巳、
木本隆夫、竹井進、田重田勝一郎、巽真理子、谷村修、松居勇、
森田裕之、鷺見直子、足立悠真、狩野史門、小西響、西條陽菜、
佐藤由夏、武内柚葉、山崎桜愛
（以上 20 人出席）

【事務局】伊藤修士（中区长）、山田美佐（副区长）、名越賢治（部理事（深井駅
周辺地域活性化推進担当）兼深井駅周辺地域活性化推進室長）、宮井良
平（中保健福祉総合センター所長）、長谷英俊（自治推進課長）、大野か
おり（市民課長）、中崎皓之（保険年金課長）、宮崎規行（生活援護課
長）、赤松邦彦（地域福祉課長）、松尾敏之（子育て支援課長）、山本
深悟（子育て支援課長補佐）、古谷禎人（中保健センター所次長）、竹内
秀和（企画総務課長）、重谷憲治（企画総務課長補佐）、大橋直季（企
画総務課企画係長）、神楽所千花代（企画総務課副主査）、具足愛（企
画総務課職員）

1 開会

○司会（大橋）

ただいまから令和 7 年度第 2 回堺市中区政策会議を開催いたします。

私は本日の司会を務めさせていただきます、中区役所企画総務課企画係長の大橋と申します。皆様
よろしくお願いいたします。

中区政策会議につきましては、区民の行政への参画と区長の政策立案を支える仕組みとして令和 3
年度に設置いたしました。本会議は、構成員の皆様と地域の実情や課題を共有いたしまして、地域性と
専門性の視点により、情報交換や議論を行う場となっています。本年の 7 月 1 日から 2 年間で中区政
策会議における第 3 期の期間となっています。

本日の会議は、第 3 期としては初回の会議となります。それでは次第に従いまして、順に進めます。ま
ず、開会に当たりまして中区长の伊藤よりご挨拶申し上げます。

2 中区长挨拶

○中区长（伊藤）

皆様、こんばんは。中区長の伊藤です。本日はお忙しい中、令和 7 年度第 2 回堺市中区政策会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

平素より中区の区政推進につきまして、ご理解ご協力いただきまして、厚く御礼申し上げます。

先ほど司会からありましたように、本日は第 3 期中区政策会議での初回の会議となります。皆様におかれましては、本会議の構成員をお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。この場をお借りしまして、改めて御礼申し上げます。

さて、本日のテーマは、「次期堺市中区地域計画（計画案策定に向けての考え方）について」でございます。中区地域計画は、区政運営の大方針であり、今年度は計画期間の最終年度であることから、これまでも区政策会議でご意見を頂戴しながら、次期計画の策定作業を進めてまいりました。

本日は計画案を策定するに当たりまして、構成員の皆様からこれまでの知見を活かしたご意見や、新たな視点でのご意見など、様々な観点からご意見を頂きたいと考えております。限られた時間ではございますが、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○司会（大橋）

続きまして、構成員の皆様をご紹介します。

本来ならば、お一人ずつ自己紹介をしていただきたいところですが、時間の都合上、恐れ入りますが、お名前を呼ばれた方につきましては、ご起立のみお願いいたします。

それではご着席の順番にご紹介してまいります。

（別紙「配席図」の順に構成員を紹介（氏名・肩書きは別紙「構成員一覧」参照））

なお、株式会社 PEACE 代表取締役 仲氏昌平様におかれましては、本日欠席のご連絡をいただいております。それでは、前期から引き続きご参加いただく 12 名の構成員の皆様と、今回、新たに就任いただきました 9 名の構成員の皆様の計 21 名の体制で第 3 期中区政策会議を進めます。

続きまして、座長についてですが、堺市中区政策会議開催要綱第 5 項第 1 号において、区長の指名により座長を定めると規定されています。第 3 期の会議開催に当たり、事前に森田構成員を座長に指名し、ご了承をいただいております。

また、座長不在時に職務を行う職務代理者については、同要綱第 5 項第 3 号において、座長の指名により定めると規定されており、事前に森田座長から金澤構成員をご指名いただき、ご了承をいただいております。お二方とも、座長、職務代理者をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、ここからの会議進行につきましては、まず私の方から議題の設定理由について説明させていただきます。その後、森田座長に進行をお願いいたします。

それではまず、今回の議題の設定理由についてご説明いたします。

今回の議題は、「次期堺市中区地域計画（計画案策定に向けての考え方）について」です。

配付資料 5 の現行「堺市中区地域計画」につきましては、本会議の前身である堺市中区区民評議会において、諮問及び答申を頂き、令和 3 年 3 月に策定いたしました。その後、同計画に基づきましてめざす将来像の実現に向け、各取組を進めてまいりました。現行計画は今年度末に計画期間を満了することから、現在、次期計画の策定に向けて、準備を進めております。

中区政策会議におきましては、これまでに令和 6 年度第 2 回会議において「現行計画の振り返り」を、令和 7 年度第 1 回会議において「骨子案策定に向けての考え方」をそれぞれ議題としまして、構成員の皆様から様々ご意見を頂きました。

本日の会議では、大枠の骨子が固まった中で、取組方針等を含めた計画案策定に向けての考え方

について、皆様にご意見を頂きたいと考え、今回の議題としております。

次に、配付資料のご案内を申し上げます。

「（資料 1）次期堺市中区地域計画（計画案策定に向けての考え方）」でございますが、こちらの資料に計画案策定に向けた考え方を記載しています。

資料 1 の 1 ページから 3 ページまでは、「これまでの振り返り」を記載しています。続きまして、4 ページには、「計画案策定の考え方」を記載しています。

こちらに「これまでの中区政策会議での意見を踏まえ、骨子案を作成」とございますが、作成しました骨子案は「（資料 2）次期堺市中区地域計画骨子案」として添付しています。大枠の方向性や将来像実現のための重点事業を骨子案に反映しております。この骨子案を踏まえた上で、取組の方向性など計画案の作成を進めていきたいと考えています。

また、見直しに当たりましては、前回の会議でのご意見を踏まえて、KPI の設定について、より客観的な評価ができる定量的な指標の設定や、中区区民アンケートの結果を踏まえて、見直し内容を検討いたしました。

本年 6 月に実施しました中区区民アンケートの集計結果につきましては、「（資料 3）中区区民アンケート集計結果報告書」としてまとめています。

資料 4 は、中区区民アンケートの集計結果のうち、子育て及び交流の関連の項目について、こどもと同居している方の割合からアンケート結果を示したものと自治会の加入別の割合からアンケート結果を示したものをそれぞれ抜粋し、補足資料として添付しています。資料 3 及び資料 4 については、参考資料としてご覧いただければと思います。

続きまして、資料 1 の内容に戻りますが、取組の方向性、主な取組方針、KPI の見直し内容につきましては、資料 1 の 5 ページ以降にそれぞれ将来像実現のための重点事業、7 つの各分野別要素の順に 8 つの項目を記載しています。

5 ページ以降の資料の建付けですが、8 つの項目ごとにこれまでの中区政策会議で頂いたご意見と中区区民アンケートでの結果を抜粋したものを記載し、それぞれのご意見等を踏まえた見直し内容を記載しています。KPI について、まず、堺市市民意識調査に関連した項目につきましては、全般的に過去の増減率を踏まえて目標値を設定しています。そのうち、分野別要素の子育てや健康については、次期堺市基本計画の指標とも整合を図りまして、目標値を設定いたしました。

加えまして、分野別要素「安全」に関しまして、中区区民アンケートで中区の将来に期待する意見が多かったことも踏まえ、過去の増減率の推移に加えて、更に取組を推進するため、数値を上方修正し設定いたしました。

次に KPI の指標の中で、今回新たに加えた定量的な指標の項目については、実際の事業実施や取組において把握する実績値の推移などを踏まえ、目標値を設定いたしました。

これらの内容をご覧いただきまして、ご意見やご提案を頂戴したいと考えております。

なお、「（資料 6）構成員からの事前意見まとめ」及び「（資料 7）令和 7 年度第 2 回堺市中区政策会議学生部会（報告）」については、構成員の皆様及び学生構成員の皆様から頂きました事前の意見をまとめた資料となります。この後の意見交換の際の参考資料としてご覧ください。

配付資料の最後ですが、「（資料 8）参考策定スケジュール」については、次期計画に係るスケジュールを記載しています。こちらも参考資料としてご参照願います。

議題の設定理由については以上となります。

それでは、森田座長、会議の進行をよろしくお願いいたします。

3 議事

○森田座長

こんばんは、今期も引き続きまして座長を務めさせていただきます、森田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは次第に沿って議事を進めます。次第 3、議事「次期堺市中区地域計画（計画案策定に向けての考え方）」についてでございます。ただいま事務局より議題の設定についてご説明いただきました。構成員の皆様のご意見を伺う前に、先日開催されました学生部会について、事務局より概要を説明していただきたいと思います。

○事務局（大橋）

学生部会の概要を説明いたします。

中区におきましては、令和3年度第2回の会議より、学生構成員の皆様の会議案件の理解を深め、会議当日の意見提出の助けとするために、学生構成員だけで先行して意見交換を行う学生部会を開催しています。今回も学生部会を実施いたしまして、事務局から資料についての説明を行った後、学生構成員との質疑応答や意見交換を行いました。学生部会についての説明は以上となります。

○森田座長

ありがとうございます。次に、学生部会に参加していただいた学生構成員の一人である小西構成員に意見交換した内容についての報告をしていただきます。

小西構成員、よろしくお願いします。

○小西構成員

先日、開催されました学生部会において、参加学生で話し合った内容について報告させていただきます。「（資料7）令和7年度第2回中区政策会議学生部会報告」をお手元にご用意ください。

質問項目「計画案策定に向けての考え方についての意見」については、資料に記載のように、全般に関すること、将来像実現のための重点事業、そして、安全、歴史文化、交流に関する意見が出ました。

まず、全般についてですが、今回見直し内容にありました各指標については、いずれも具体化がなされており、前回の中区政策会議で意見が出ていた客観的な指標の設定という課題に対して対応しており、達成度が分かりやすくなったとの意見がありました。

次に、将来像実現のための重点事業についてですが、水賀池公園の整備を軸として、地域活性化の取組に関して期待する意見が多くありました。各内容は資料に記載のとおりですが、私たち学生の視点においても、新たに完成する施設には様々な期待をしていますので、ぜひ取組を進めていてもらいたいと思います。

次に、安全の分野についてです。こちらでは、防災の観点と、治安の観点でそれぞれ意見がありました。特に、学生の中には、他府県から大阪に居住している人もいるため、防災に関する情報の入手の方法など、何か周知を図っていただける部分があれば、今後の取組の参考にしていただきたいと思います。

次に、歴史文化の分野です。こちらでは、今回新しく構成員になったメンバーも多くいますので、中区で取組を進めている「注染」や「土塔」について、どのようなものを今まで知らなかったという意見がありました。こちらは、今後の取組の中で魅力発信の一層の推進との記載がありましたので、今後の取組に期待をしているという意見がありました。

最後、交流については、自治会の加入率を指標に加えたことは良いことだという意見がありました。先日、自治会の方々と私たち大学生でお話できる機会がありまして、様々なお話を聞く中で、地域での取組が必要であると感じました。

また、防犯や防災の部分でも、自治会加入の要素が影響しているのではないかという意見もありました。学生部会の報告は以上になります。

○森田座長

報告ありがとうございました。構成員の皆様から事前にご提案をいただき、その内容を資料 6 にまとめていただきました。学生部会においても、様々なご意見を出していただいております。これらを踏まえて、更に皆様からご意見やご提案などがございましたら伺いたいと思います。

本日は議事としては一つでございます。現行計画では分野別要素における KPI の数値設定がほとんど市民意識調査に基づいたものだけでしたが、これまでの区政策会議での議論を踏まえ、定量的な指標を積極的に採用していただいています。

まずは KPI の内容についてのご意見と、その内容が適切であるとする場合、目標値の設定としてどうなのかの大きく 2 点が議論すべきポイントであると考えています。

最初に KPI として新設されたもの、既存のものも含めて、それぞれの分野別要素に対して設定している点について、まずはご意見いただき、特に大きな反対意見がないようでしたら、後半はその目標値の設定についてご意見をいただければと考えております。

まずは継続の構成員の方からご意見をいただいた上で、初参加の構成員の方からご意見をいただければと思います。まずは太田構成員からご意見をお願いします。

○太田構成員

事前意見にも書きましたが、子育て支援の分野で、若い世代の方にとって「子育てがしやすい」とは、精神面で安定して子育てしやすいのか、物理的な状況で子育てしやすいのかがイメージしにくいと感じています。

○森田座長

ありがとうございます。以前からいただいていたご意見かと思います。資料 1 の 8 ページに記載がありますが、これまでの KPI では「子育てがしやすい都市だと思いますか。」というアンケートに基づく割合だけを見ていましたが、それだけでは人によって「どう子育てしやすい」と思うのかという感覚が違いますので、数値をどう考えるべきなのか難しい点があります。

そのため、新たに定量的な値として「子育て家庭への相談・支援のために関係機関と連携した数」を KPI として設定していますが、その点はいかがでしょうか。

○太田構成員

子育て家庭への相談・支援のために関係機関と連携した数について、関係機関は行政のみなのか、どういうところを関係機関と設定し、現状 830 件の件数を目標の 1,000 件にするのか、分かる範囲で結構ですので教えていただけますか。

○事務局（大橋）

事務局から補足いたします。連携の数ですが、子育て家庭への相談・支援のために子育て支援課の

専門職が、積極的に関係機関と連携した数を計上する予定です。内容としては「家庭児童相談」「女性相談」「ひとり親相談」の機能の充実のために、関係機関と連携した数、加えて「子育て相談」をはじめ、他機関に出向き連携した数を想定しています。

○森田座長

数値については、どう思われますか。

○太田構成員

この 830 件は多いのでしょうか。妥当な数字はどれぐらいでしょうか。私は「子育て支援こころ育みネット」の代表としてこの会議に参加していますが、仕事としても堺市の「みんなの子育てひろば」を運営しています。そこで受けた各家庭の相談は、中区役所の子育て支援課や中保健センターに連携していますが、それは 1 件と計上されるのでしょうか。

○事務局（大橋）

記載している数値は令和 5 年度の実績値です。この数値が多いか少ないかについては、担当課からご説明いたします。もう一点、連携数の計上方法については、子育て支援課が入り口として相談を受け、関係機関に連携を行った数を計上しています。

子育て支援課から説明の補足や、「830 件が多いか、少ないのか」について回答をお願いします。

○松尾子育て支援課長

子育て支援課としては、結構な数があるかと認識しております。目標件数につきましては、今までの実績等を加味しながら、今後 5 年間でこういった目標に向かっていければと考えております。

○太田構成員

ありがとうございます。

また何か気になることがありましたら、ご質問させていただきたいと思います。ありがとうございます。

○森田座長

この点については、私も意見を出していきまして、複数回相談に来られる方の問題は非常に複雑なため、1 つの部署だけでその問題を解決できず、必要な部署と連携しています。そのため目標値として連携した数を設定する必要があることは分かります。

ただし、問題を解決することはなかなか難しいとは思いますが、重要なのは「問題が解決されたかどうか」ということであり、「解決した件数」を把握できないかと意見を出していました。

しかし、すぐに解決できる問題もあれば、解決がなかなか難しく、継続して相談が続いていく案件も多いそうです。この件についてご意見のある方いらっしゃいますか。特になければ、今のところ把握できる数としては「連携した数」になるようです。

最終的には「解決できた数」は把握するべきだと個人的には思っていますが、その一歩としては、連携している数を見るというポイントは重要です。今回はこのような形で進めていき、数値については、また後ほど時間がありましたら話したいと思います。

今、子育ての話が出ましたが、子育てについて何かご意見されたい方いらっしゃいますか。

○小西構成員

小西です。子育ての話から逸れますが、分野別要素「健康」で新設された「特定健康診査を受診していますか。」という KPI の下の方に「対象 40～74 歳」とあります。対象年齢を絞って質問ができるのではないかと思ったのですが、このように子育て分野でも子育て世代だけにフォーカスして聞くような新たな指標を作ることは難しいのでしょうか。

○事務局（大橋）

対象者を絞った方法としては、例えば、中保健センターではツインエンジェルズという双子などの多胎児を対象とした事業を実施しており、そのような方に対して、具体的なアンケートをとるのであれば、対象者を絞ることは可能ではないかと考えています。

「子育て」の分野では、子育ての関連部署を含めた連携の数を計画上の KPI として提案していますが、具体的に対象者がどう感じているのか、対象者に向けた取組がどう向上していくのかは、今後の具体的な事業の実施や、取組をする中で見ていく必要がある観点だと考えております。

子育て支援課で何か説明の補足はありますか。

○松尾子育て支援課長

当課では、子育て世帯が孤立しないよう、講座や交流会などを実施しています。その際、どのような意見があるのかアンケート等も行い、結果について把握するようにしています。

○森田座長

ありがとうございます。双子などの数はおそらくかなり少ないかと思われます。幅広く意見を把握できるものを考えていくことも良いかと思えます。

今の点について何かご意見のある方、いかがでしょうか。

○太田構成員

先ほど多胎児の話が出ましたが、双子や三つ子の支援でお母さんお父さんの悩みを聞くことは大事だと思いますので、アンケートなどを取ることはとても大切だと思います。

どのくらいの子育て世代が、多胎児の子育てについてしんどいと感じているのか、中区で子育てしやすいと感じているのかを個人的にも聞いてみたいと思います。一方で、対象者は違いますが、ひとり親や、父子家庭にもアンケートを取っていただきたいと感じました。

○森田座長

ありがとうございます、それについてほかにご意見はございますか。

○鷺見構成員

質問ですが、子育てで一括りにしましても、こどもの年齢によって親の感じ方が違うように思います。就学前や、生まれて中保健センターでお世話になっておられるような小さなお子さんなど、こどもの対象年齢を分けて調査を行っていますか。

○事務局（大橋）

KPI の「子育てしやすい都市だと思いますか。」については、堺市の全体で行っている「市民意識調査」から引用しています。数値については、年齢を絞ったり、男女別を絞ったりはしておらず、無作為抽出で選ばれた方が回答した数値を引用しています。

○森田座長

事務局から回答がありましたように「堺市は子育てしやすい都市だと思いますか。」への回答は、無作為抽出をしなければいけないこともあり、年齢を分けることは難しいと思います。ただ、「子育て家庭への相談・支援のために関係機関と連携した数」は相談に来られた方の数になるため、何歳児の相談であったかは記録として残すことが可能かもしれませんので、今後確認することができるかもしれません。

ほかご意見ございますか。なければ、次に竹井構成員、よろしくお願いします。

○竹井構成員

前回、事前意見で書いていた「SAF（サフ）」（Sustainable Aviation Fuel 持続可能な航空燃料）について取り上げていただきました。資料 14 ページ分野別要素「環境」の「ごみの減量やリサイクルに取り組んでいますか。」に関連して、廃食用油の回収が堺市内では、コスモ石油系列のガソリンスタンドか、イオンであれば堺区の鉄砲町と北区の北花田しか回収できません。回収 BOX の設置が十分に行なわれておらず、廃油を持って行きたくても限られた場所しか持って行けない現状があります。油なので問題も色々あるかと思いますが、例えばコンビニや区役所など、幅広く回収ボックスを設置していただければと思っています。

乾電池の回収などは、スーパー等で回収しているところもありますが、廃油の回収はイオンだけに限られています。もっと積極的に設置し、周知すれば、皆様リサイクルに取り組んでいただけたと思います。

○森田座長

ありがとうございます。「SAF（サフ）」の件について、回収 BOX の設置は今すぐにはなかなか難しいかと思います。それは将来的な課題の一つとしていただきたいと思います。

14 ページの新設された 3 つの KPI（指標）案にご意見はございますか。

○竹井構成員

目標値としては、全体的に下がっている感じがありますので、もっとできることはあると思います。みんなが知れる場所、例えばスーパーでもごみのリサイクル回収ができる場所としてもっと広がるといいなと思いました。

○森田座長

ありがとうございます。先ほど出ましたように、「SAF（サフ）」やリサイクル品の回収などもあるとは思いますが、なかなか理解等もありますので、すぐに何かを変えるのは難しいかもしれません。そういう意味で言うと、例えば、区役所で配っている花苗株数は、以前から実施しているようですが、区役所で配付すればそれでいいかというそういうわけではなくて、5,000 株配付しようと思っていても天候等の影響でなかなか用意できないということもあるそうです。今回は目標値として 5 年間の累積で 2 万 5,000 株を設定しているところです。

あとは、不法投棄が基本的になくなるのは重要だと思いますので、「不法投棄の年間処理量」も見ていくのも重要ではないかと思います。特にご意見はございませんでしょうか。そうしましたら、次、谷村構成

員、お願いできますか。

○谷村構成員

9 ページ、10 ページの分野別要素「福祉」において、健康・介護など日常生活における困りごとに関する KPI を設定していくのは、より具体的な設定をされているのですごく有効かなと思いました。相談支援についても、区民アンケートにおいて課題であるという割合もすごく高く出ていますので、相談支援を充実していくことはすごく有効だと思います。

高齢者の総合相談件数についてですが、例えば、もし内訳が取れるのであれば、「介護保険の相談件数」や、「認知症による相談件数」などの記録を取っていければ、どの分野を強化したら良いかが見えてくるのかなと思いました。

あとは、分野別要素「福祉」で設定する KPI と分野別要素「健康」の内容とでリンクさせていくことができれば良いと思いました。

○森田座長

はい、ありがとうございます。ご意見いただいた相談の内訳は重要ですので、どういう項目が必要なのかは整理していただければと思います。KPI ではないと思いますが、全体の件数など後ほどカウントできるようにし、どういった相談が多いのかということを確認できるようにすることは重要だと思いますので、把握していただければと思います。

今の内容について何かご意見ある方はいらっしゃいますか。

○今西構成員

今回、新設された相談件数が地域包括支援センターと基幹型包括支援センターの相談件数から引用されると書いていますので、「認知症の相談件数」、「介護保険の相談件数」は全部分けて統計を取っているのを把握することができると思います。

それから、区民アンケートに応じない方が多いのではないのかと思っており、そういった孤立していく方々の意見をどう拾っていくのか、どう支援したらいいのかと思い、いつも基幹型包括支援センターと考えています。一つの家庭に、精神疾患・認知症・経済的困窮・引きこもりなど、複数の問題が重なっている場合があるので、一つの支援機関だけでは解決できないことが多いです。そもそも家庭にそのような問題があるのか分からない場合があるので、アンケートにも応じられない方々も、地域包括支援センターや各相談機関が意見を拾ってくることで、繋げていけるので、新設の KPI はとても良いと思いました。

もう一つ、健康分野の特定検診の受診率が KPI70%越えになっていることは、とても良いと思います。中区の皆様には病気の早期発見、早期治療につなげたいと思うので、ただ長生きすることではなくて、健康で長生きするためにはどうしていくことが課題なのかということに力を入れたらいいなと感じています。

○森田座長

はい、ありがとうございます。ぜひ、将来的には特定検診の個々の内容について考えていながら KPI として追加するなどしていただければ、さらに深く評価できるようになるのではないかと思います。

そうしましたら、先ほどの順番に戻りまして、小西構成員どうぞ。

○小西構成員

分野別要素「環境」についてですが、今回の KPI で新設された、例えば「あなたのお住まいの地域は緑

豊かだと思いますか。」といった区民の思いを聞くものと、新設された「花苗の配付株数」といった実測されるものと 2 つあると、「区民の思い」の値が上昇した時に、なぜ上昇したのかが分かりやすいので、指標として「思い」と「実測値」の 2 つあることはすごく分かりやすくなったと感じました。

○森田座長

はい、ありがとうございます。そのとおりですね。それでは次に、松居構成員をお願いします。

○松居構成員

小西構成員からは、実数が加わったことで、「なぜ上がったのかが分かりやすくなった」と意見がありました。私は本当にそうなのか少し気になっています。

例えば、数値目標が上昇しているのに主観的な感覚が上がっていないとき、本当に相関性があるのか注意して見た方が良いのではないのでしょうか。また、これは全体を通して言えることで、「その部分は本当に相関しているのか」をきちんとチェックすることが大事だと感じています。設定自体はこれで全部良いと思っています。

もう一つ、今回の全体の目標値についてですが、当初の数値から現状値にかけて上昇している項目は、そのままの調子で進めようみたいな感じと、期待値みたいなことも込められているように感じました。一方で、前回から今回あまり伸びなかった項目は控えめの設定になっている印象もありますが、低い項目ほど意識的に伸ばす努力が必要だと感じています。

例えば、歴史文化の「文化・芸術活動をしやすい都市だと思いますか。」というところで、おそらく前回伸びなかった目標値を踏まえて控えめに 39.5%の設定になっています。目標値が 40%程度でいいのか、結構低めの設定だなと少し気になったところです。

また、防犯の部分も伸びにくかったところかなと感じています。安全の「治安に関する不安が少ない都市だと思いますか。」について、今回も目標値まではなかなか伸びませんでしたが、ただ、そこはめげずに、6 割くらいの達成をめざしているので、「ここを意識的に伸ばしていこう」というような、成長に向けた狙いがきちんと読み取れるようになっていたらいいなと思っています。

全て一律ではなく、「今、区としてどこに力を入れようとしているのか」が読み取れるような内容になっていれば、それを見た区民や関係者も「そこを意識して頑張っていこう」と一丸となって取り組む気持ちにつながるのではないかと感じています。

○森田座長

はい、ありがとうございます。最初の点ですが、例えば 14 ページの「緑」に関する話は、おっしゃるとおりで、主観的に聞くものと客観的に評価するものとの両面から見るのが重要だと思います。しかし、先ほどおっしゃったとおりで両方が必ずしも連動するとは限らず、例えば「あなたの住まいの地域は緑豊かだと思いますか。」という主観的な質問では、同じ環境でも人によって感じ方が異なります。無作為抽出の方法や回答者の偏りによって結果が左右される可能性もあります。

もし、緑が全体的に広がり、みんながそう思うようになったとすれば、誰に聞いても緑が多いと思っていただけののだろうとは思いますが、そうでなければサンプリングの問題もありますので、ここの辺りはわからないと思われます。一方、区役所で行っている花の配付などの施策も、全体にまんべんなく配付するわけでもないので、地域によってある程度偏りがあるかと思っています。しかし、継続的に行うことで、徐々にいきわたることが期待されます。偏りをどのぐらい考えるかということもありますが、重要なのは、数字を見て「なぜ上がらないのか」「何が原因か」を考察し、次の施策に活かすことです。これまでは、数字的な分析が十分に行わ

れていなかった点を踏まえ、まずはデータを見て、その上で考察し、例えば先ほどのご意見などを聞き、必要に応じて見直し、良い方向に持っていけば良いと考えています。

そして、後半の点についてですが、目標値の設定方法についても考える必要があります。目標値についての考え方としては、定量的な値による評価とアンケートによるパーセントで表す評価は性質が異なります。異なる理由は、アンケートの場合は毎回無作為抽出する対象が変わります。しかも、無作為抽出した上での回答率が 100%ではありません。例えば、ある時の調査で無作為抽出した 100 人へ調査した結果と、別の無作為抽出した 100 人への調査では、結果が全く同じ比率になるかといえませんが、統計的には 1~2%のズレは誤差の範囲です。そういう意味で考えると、主観的な評価の場合、一概には言えませんが、サンプル数によって 5%程度の差が出ると対象者の感じが違ったと考えます。例えば、「緑が多い」と感じる人が増えれば、5%程度の変化が出る可能性があります。つまり、主観的な指標にはある程度のばらつきが生じることを考えると、5%程度を一つの目安として考えるのが妥当かもしれません。一方、定量的な指標は毎回同じ方法で評価するものですので、この場合 5%である必要はなく、1%でも上げるべきという考え方をしてもいいのかもしれない。

もう一つは、松居構成員がおっしゃったように、目標値があまり明確でない点について、目標値の設定が低くて良いのかという考え方は当然かと思います。例えば、半分は超えるべきだと思えば、まず目標は 50%をめざします。しかし、現状から見て 5 年で 50%に到達するのが難しい場合は、最終目標を 50%としつつ、今回の目標値はそれに対していくらかを設定するか考えるべきでしょうから、先ほどの話と合わせますと、主観的な評価は 5%ぐらいを目安に、もっと増やすべきだと思えば、10%の目標を設定すべきなのかもしれません。このあたりはいろいろお考えがあらうかと思うので、この仮の目標値に対して「もっと増やすべきだ」という意見があれば、今後の議論でぜひご意見をいただければと思います。

それでは、松居構成員のご意見について、何かご指摘のある方はいらっしゃいますか。よろしければ、次に進みましょう。田重田構成員、よろしくお願いします。

○田重田構成員

田重田です。よろしくお願いします。子育ての分野のところで、現行の KPI が「堺市は子育てがしやすいまちだと思いますか。」というざっくりとした問いで、現行の主な取組方針でいうと、「子育て支援ネットワークの拡大・強化」、「特別な支援を要することも・家庭の支援」、「子育てや母子福祉等に関する相談体制の確保」という、大きな方針が達成できたか測る指標がこの 1 つしかなかったのですが、今回、新たに関係機関との連携数という具体的な指標が加わったのは良かったと思います。

ただ、主な取組方針の「こどもの健やかな育ちの確保」という方針が、この指標だけで本当に測れるのかは分からないと思いました。

また、主な取組方針が現行では「特別な支援を要することも・家庭への支援」や「子育てや母子福祉等に関する相談体制の確保」と書かれているのが、今回の新しい方針では「こども・子育て家庭への支援」、「子育て等に関する相談体制の充実」、「子育て支援ネットワークの拡大強化」と、より抽象的な表現になった印象です。これでダメだというものではないですが、もう少し踏み込んでいいのではないかと感じました。大きな方針なので、個別の問題は取り入れられないかもしれませんが、例えば、私は不登校の支援に関わっているので、不登校のこどもに対して、区として居場所や学習機会を確保する姿勢を盛り込んでいただくとか、特別な支援を要することも・家庭への支援でいうと、こどもの貧困、一人親家庭、こどもの自殺などの問題が年を追うごとに深刻化しているので、そこにしっかりサポートしていく姿勢などが盛り込まれていけば、子育てする上での安心感につながると思います。

もちろん、書かれている内容は間違っていないし、大切なことですが、もう一步踏み込んだ表現があっ

ても良かったのではないかというのが私の意見です。

○森田座長

はい、ありがとうございます。定量的な指標を出しているのは、高評価だけれども、違うポイントもあるのではないのかなと言うご意見かと思います。

おっしゃることはよく理解できます。1 つは、KPI として見る際に、何が使えるのかという現時点で使えるものとなると、なかなか難しい部分もあるかもしれません。もちろん、できるものもあるかもしれませんが、「できるかどうか」という問題と、もう 1 つはおそらくですが、まず全体に関わるものにフォーカスが当たっているのではないかと思います。

ご指摘のあった不登校の問題や自殺の問題も、当然重要ではありますが、最終的にはそういった個別の課題にも焦点を当てていけるようにしつつ、まずは全体をなんとかしないといけないということなのかなと考えています。今後の課題として、そういった点もきちんと見ていくべきですし、例えばそういう問題を把握できるような指標を見ていくべきだというご意見として承りたいと思います。

他にご意見のある方はいらっしゃいますか。今西構成員、先ほどお話しされましたが、追加で何かあればどうぞ。

○今西構成員

先ほど、学生部会の報告がありました、安全に関する「防災」のところについて、「引っ越して来られた方が、小学校の校区が分からず、避難所もどこか分からない。だから、避難に関する情報がもっと入手しやすくなれば良い」という内容がありました。それを聞いて、確かにそうだなと思いました。

地震と台風では避難する場所が違うこともありますし、小学校だったり中学校だったり避難所が変わることもあります。校区がわからない方は、きっとたくさんいらっしゃるのではないかと思います。

ですので、こういった情報がもっと入手しやすくなれば良いなと、私も共感しました。

○森田座長

はい、ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思います。

ただ、さらに言うと、どなたに聞けばいいのかは分からないのですが、防災の話で言えば、単に「どこの校区か」ということだけでなく、実際に災害が起こったときにどう行動するかという点がより重要なのではないかと思います。

そのあたりの避難訓練や、備蓄のことなどは、自治会が関係しているのでしょうか。

例えば、自治会に入っていれば、そういった情報が入手しやすくなり、避難する場所だけでなく、「どうやって避難するか」といったことも関係してくるのかなと思っていたのですが、そういうことでもないですか。どうですか。

○金澤構成員

防災や安全・安心に関して、私の個人的な立場から申し上げると、やはり各町で自治会員数が少ないというのが一つの課題ではないかと思います。

昔は、深井地域でも 3 つに分かれておらず、一つの深井でした。隣近所、また隣の町の人として離れていてもほとんどの人は顔見知りで、色々な意見交換ができていました。隣のおじいちゃんやおばあちゃんから注意されることも当たり前で、いわゆる“田舎らしい”環境だったと思います。

前回もお話したかと思いますが、今までの防災訓練にしても、出席するメンバーがほとんど同じ顔ぶれ

です。東深井校区には8町あり、それぞれに役員さんがいますが、出席者は限られていて、毎回同じ人たちが参加している状況です。

例えば、実際に被災した場合、防災訓練に出席していない方や自治会員でない方が、当然避難してきます。避難場所の小学校・中学校に来ます。堺市からも、南海トラフ地震が発生した際には津波警報が出て、西の方から阪和線を越えて避難してくる人が多くなるだろうという話もありました。そうした可能性も十分にあると思います。「自治会に入るメリットはありますか。」と聞かれますが、損得の関係ではなく、知らない人と知り合いになること、お互い助け合うこと、地域のイベントに参加することによって、コミュニティづくりにつながると思います。そういう意味でも、自治会員の増加が、安全・安心、そして魅力的な地域づくりに繋がっていくと感じています。

11月には、東深井校区で防災訓練を予定しています。自治会員でない方も含めて、できるだけ多くの方に参加してもらえよう、防災訓練のチラシを4,000枚印刷しました。小学校・中学校を通じて配付したり、ポスティングしたりして、広く周知を図っています。

東深井校区の住民が約12,000人だったと思いますが、少しでも多くの方に参加してもらいたいと思っています。アンケートでも、防災や安全に関する項目の関心が高かったように思います。ただ、アンケート回答者が町会員かどうか、防災訓練に参加したことがあるかどうかは分かりませんが、今まで参加していない人にもぜひ参加してもらい、消火器の使い方など学んでもらえたらと思います。

今回の防災訓練では、テレビ朝日の気象予報士・正木さんにも来ていただき、1時間ほど講演していただく予定です。また、防災用品のメーカーにも協力いただき、展示・販売も行います。日頃からの備えが大切だということを、防災委員長を中心に、自治会役員と協力して、防災訓練の実施に向けて計画しています。

やはり、自治会員に地域のイベントに参加してもらうことで、一度でも顔を合わせれば、会釈のひとつでも交わせるようになります。家に閉じこもってはいは、なかなかそうした関係は築けません。いざという時に本当に助け合えるかどうか、私たちの心配しているところです。

駅前を中心に美化運動もしますが、ごみが多いと、やはり落書きが増えたり、犯罪につながったりするんですよね。

この前、交番の横に中区の看板があるのを見たのですが、いつの看板って思うような白い看板が建っているのを確認してもらいたいです。そういう場所も、もっときちんとしてほしいなと思います。原池公園など施設の案内が書かれていません。中区役所ができたとき、「中支所」という名前だったと思うのですが、看板の上に「中区役所」というシール貼られてあって、それが今、剥がれかけています。地図を見ても分かりにくいし、看板も昔のままの「中支所」と書かれたままです。そういうのを見ると、途中でシール貼って対応しているけど、やはり行政には案内板など、きちんと見直してもらいたいと思います。少し話がそれたかもしれませんが、よろしくお願いします。

○森田座長

ご意見いただいているように、指標も関連している。例えば、自治会の問題も、安全の問題もいろいろな連携していると思います。単純にどう伝えるのかも、もちろん大事ですが、何かあったときにより安全に対応できるようにするには、ひとつは自治会への加入が大きいのではないのかなと思います。

では続きまして、伊藤構成員、お願いします。

○伊藤構成員

私は、いろいろ全体的に意見を書いたほうがいいのかと思いましたが、その中で特に、気に

なったのが、「安全」「環境」「歴史」「自治会」のところですよ。

「安全」に関しては中堺警察署ができたことで、治安が良くなったのか悪くなったのかという点が気になります。全体的にというよりも、できる前と後の指標があれば、できたことで住民の意識が変化し治安が改善されたという見方もできる。このような見方を KPI に含めてもらえれば、「少し改善された」という評価が出てくるのではないのかなと感じました。

歴史文化の分野でもそうですが、たくさんある歴史資源や、注染（浪華本染め）などの認知度をもっと上げるという意味では、いろいろなイベントで、見せる場所を作る必要があるのではないかと。水賀池の再開発に取りかかる中で展示するなど、要所要所に歴史をさりげなく散りばめることによってもっと PR ができる、いわゆる映えスポットとして認知されれば、歴史、文化について、もっと関心を持ってもらえる人が増えるのではないかと思います。

また、「交流」に関して、中区では「だんじり」もあり、祭りが盛んであると思います。私は「だんじり」に参加しているわけではないのですが、「だんじり」を引いている人たちは、自治会の方、もしくは青年部の方々と、お祭りに熱い地域だとは思っているので、結束力があると思います。

自治会の中でも、誰かが中心となり、自治会の良さを発信していかない限り、自治会の魅力がなかなか伝わりにくいかなと思います。「もううち入っていないから、別に入らなくてもいいよ」というようなことを言われてしまうと、マイナスイメージとなり、自治会に入らなくてもいいのかなと、若い世代もしくは引っ越してきた世帯に思われることは、すごく残念なことだと思います。

自治会に入って良かったことが伝染していくような、スピーカーがいれば、自治会に入らなければいけないと思ったり、みんなで団結して何かやりたいと思ったりするモチベーションになるのではないかという期待を持って、意見書を書かせていただきました。以上です。

○森田座長

はい、ありがとうございます。色々なご意見いただいています、すぐに指標に入れられるところと、入れない部分はありますが、それに対するアクションとして、例えば PR の重要性とか、そのあたりのご意見をいただきました。実際の手段としてのアクションの点で、今のようなご意見を参考にいただければと思います。

その他、ご意見ありますか。よろしいですか。では続きまして、異構成員、お願いします。

○異構成員

ありがとうございます。全体的に定量的数値が測れるものを KPI に入れた点は明確になって、分かりやすいと思った反面、どういった項目がそれにふさわしいのかということは、もうすでに意見が出ているところです。それについて事前に資料をいただいた時には、中区に私が住んでいませんので、どうしても実感がないので、他の構成員の方々からいろいろなご意見を今日伺えたのは、すごく良かったなと思っております。

それで、KPI のすごく細かい点になりますが、KPI の書き方として、前の現行の計画の時には、KPI がすべて意識調査の数値で、質問形式でしたが、今回案として作っていただいているものが、意識調査の面と、その数を数える定量的なものが混在しています。これから調整されると思いますが、きちんとわかりやすく KPI の解説文の最初に、何で測っているのか明記した方が良いと思いました。

最初の話に戻ってしまって恐縮ですが、8 ページの子育ての 2 つ目の KPI に関する説明が理解できませんでした。専門職とは誰なのか、関係機関はどこなのかのかわかりにくかったので、この KPI の指標はすごく面白いなと思って見ていたのですが、もう一度具体的にどういう指標なのか教えていただいてもいいですか。

○森田座長

では、もう1度、専門職と関係機関が具体的にどういうものなのかということを説明したらいいですかね。事務局からお願いします。

○事務局（大橋）

事務局から補足いたします。先ほどの私の説明では不十分なところもあったかと思いますが、担当課からご回答差し上げたいと思います。

○松尾子育て支援課長

子育て支援課から説明させていただきます。

専門職ですけれども、我々の課には、家庭児童相談員、女性相談員、一人親の支援員、また、子育てコーディネーターや保育士、保健師という職種の専門職の職員がおりますので、そういった職員が関わっていくことになっております。

また、関係機関につきましては、同じ行政の中では保健福祉総合センターの各課であったり、また外部では、こどもの関係でありましたら市の子ども相談所であったりなど、外部の機関もございます。そういった機関とこどもやそのご家庭の課題等につきまして、当課で対応することもありますし、我々がどうしても対応できないことに関しては、他の専門機関と一緒に関わっていただいて、ご家庭のお困りごとに対して、解決に導いていけたらというところで連携しています。

○異構成員

はい、ありがとうございます。そうすると、中区の専門職の方が関係の行政機関と連携した数という理解でよろしいですか。例えば NPO とか、子育て広場とか、堺市でもいっぱいあると思うのですが、そういうところとの連携は数に入っていないという理解でしょうか。

○松尾子育て支援課長

場合によっては、外部で専門となる機関に我々も力を貸していただくケースも出てくるかと思いますが。そういうケースも連携数にカウントしていきたいと考えております。

○異構成員

それであれば、KPI の文章にも「中区の専門職が」という言葉を足した方が良いと思います。関係機関については、広いとおっしゃっていたので、そのままでもいいかと思うのですが、「誰が」ということが、この文章では不明でしたので、それははっきり書いた方がいいのではないかと思います。

ほかの定量の数値については、件数や参加者数など分かりやすいのですが、子育てのこの新設の KPI に関しては、具体像が文書だけでは見えなかったので質問させていただきました。

○森田座長

ありがとうございます。ご指摘のとおり、漠然としている書き方になっていて、どう計算しているのかわかりにくいところあると思いますが、今後、具体化して、説明をもう少し追記していただくようにお願いしたいと思います。

何か追加でご意見ある方いらっしゃいますか。よろしいですか。

それでは先ほど金澤構成員にはご発言いただきましたので、今回から構成員になっていただいた方に回

していきたいと思います。では、木本構成員、よろしくお願いします。

○木本構成員

私は自治会関係者ですので、主に自治会の現状を踏まえてお話をさせていただきます。

これまで専門的な分野の方からのご意見があったと思いますが、自治会としても各分野に対する具体的な事業を以前から続けています。ただ、自治会の事業というものは、今までお話があったような目標値を決めるような内容ではないように感じています。何%達成したから目標達成したとかそういうものではないので、考え方が若干違うように感じました。

また、今、自治会として抱えている問題として、自治会加入率の低下が非常に大きいです。自治会が実施している事業や、行政が実施している事業を周知する方法についても、自治会加入率が低いことからなかなか難しい状況にあります。

そこで、とりあえず自治会というものを知っていただこうと、私たちの校区で重点的に取り組んでいる内容としては、小学校に出向いて、自治会で取り組んでいる防災、環境、交通安全などについて説明しています。同時に「自宅に帰ってお母さんやお父さんに話してね」と伝え、自治会の活動を広めていく取組を行っています。自治会の加入状況については、小学生の保護者の年齢層はほとんど自治会に入っていないので、その年齢層の加入を増加させるためにこのような取組をしています。その他具体的に自治会が取り組んでいる内容については、事前意見まとめに記載しています。

○森田座長

はい、ありがとうございます。今のお話について、ご意見ある方いらっしゃいますか。

○佐藤構成員

ただいまの木本構成員の発言にございました、自治会の活動は KPI や目標値を定めるのに不適切であるというお考えでございましたが、どのような理由からそう考えられたのか、教えていただきたいです。

○木本構成員

自治会の活動は、目標値をおいて活動するものではないということです。例えば、イベントですと 1,000 人来たから成功したとか、10 人しか来なかったから失敗だったとか、そういう内容のものではないという意味です。

○森田座長

はい、見るポイントはなかなか難しいと思います。

数値として把握するものは何が良いのかということは、確かにご意見のあるところかもしれないですが、他に今すぐ代替するものを見つけることも難しいのかと思います。とりあえずはこの指標で考えてみて、これから様々なご意見をいただけたらと思いますので、次また変える時を念頭に置いて、別の把握できる指標があれば、またご提案をいただければと思います。

それではほかに何かご意見ございますか。

○狩野構成員

分野別要素「交流」で、自治会加入率を新規の KPI として設定することに、疑問があるような意見があったと思うのですが、私も同じ意見です。その理由はなぜかというと、「中区のいま」の中に、中区の現状

の人口が数値として出ておりまして、人口が減少傾向にあります。推定値であるとは書いていますが、人口は減少しており、その一方で単身高齢者世帯数は約 5,000 世帯と大きく増加する見込みがある現状です。この人口の変化と人口に占める世帯の年齢層が変化している中で、自治会加入率を目標値として設定することは、あまり有効ではないのではないかと考えています。特に「交流」という分野で設定されている以上、世代を超えた交流を促進するという目的があつての目標ですので、自治会加入率が現状以上になったからといって世代を超えた交流が促進されたかどうかについては、少し疑問に感じております。

自治会加入率という定量的な指標を使うだけでなく、自治会だけにとらわれず、地域活動団体の数やその参加数といった数値を新たな指標として設定し、世代交流について図ることも有効ではないかと思いました。

○森田座長

はい、ありがとうございます。それはおっしゃるとおりだと思いますが、例えば今おっしゃった地域活動団体とはどのような範囲で考えれば適切でしょうか。自治会加入率よりは、そちらの指標の方がベターと言えるのでしょうか。

○狩野構成員

確かに何をもって地域活動団体とするのか、どのように数えていくかなど、指標として用いる上で難しいと思います。地域活動団体についての知識が不足していることもあり、どちらがベターかと問われますと答えることは難しいです。

○森田座長

おっしゃりたいことは分かりますが、どの指標についてもなかなかベストというわけではないですね。より良い指標が明らかにあるのであれば変えれば良いと思いますが、特に断言できる指標がなければ、将来的には整理していただくにして、今後見直しするよう考えていただければ良いと思います。

では、続きましてお願いします。

○今村構成員

これまで皆様の意見を聞き、非常に勉強になりました。私は中区青少年指導員会副会長をさせていただき、小学生、中学生への声掛けや見回りをしています。一つ気になったことがあります、「安全」の分野の地区防災計画策定校区数について、現状 6 校区から目標値として 13 校区となっていますが、全部で何校区あるのでしょうか。

○森田座長

私も確認したのですが、13 校区が中区の小校区全てです。

○今村構成員

「堺市は治安に関する不安が少ない都市だと思いますか。」に関係しますが、中堺警察署と連絡を取り、中区内を巡回していますが、役員会などどこに行っても「中区は荒れていますね」と言われます。今後、水賀池公園の開発で新しい施設ができた時、こどもたちのたまり場になるのではないかという意見をたくさん聞いていますので、地域や警察と連携していきたいと思っています。

○森田座長

はい、ありがとうございます。

続きまして、鷺見構成員、先ほどご発言がありましたが、追加でございますか。

○鷺見構成員

先ほど、金澤構成員のお話の中であった防災訓練について、11月9日の日曜日に東深井小学校で行いますが、少しだけ補足させていただきます。今回は小学校のこどもたちを通じてアピールしていきたいということで、自治会への加入の有無にかかわらず、学校でも案内を行い、防災意識を高めたいという目的で行います。その中で、少しでも地域の取組や地域の関わり合いが大切であると感じてもらいたいと思います。

私も地域で役員をしていますので、自治会のお話は本当に痛感しています。指標を用いることはなかなか難しいと思うのですが、たくさんの方に入っていただくことによって地域が活性化し、地域のつながりが深まっていくことを実感しています。

また、自治会に限らず、高齢者の方や、一人暮らしの方が本当に多くなっている現状です。その中で、「最近あの人どうしてるのかな」、「お顔見ないね」というやり取りをすることによって、地域の皆様と一緒に健康に気を付けながら過ごすことができればいいなという思いで、日々、民生委員として過ごしています。現在、半年前に比べて認知症が重度化した方と関わりを持っていますが、もっと以前に小さな変化に気付くことができれば何か違うアプローチができたのではないかと思います。地域のつながりや隣近所とのつながりを大切にする中で、小さな変化を発見することができるのではないかと思いますので、そういう意味では、指標に用いることは難しいように感じています。

○森田座長

はい、ありがとうございます。なかなか難しい指標もあるとは思いますが、今後また良い指標があれば、ご意見いただき、見直していただければと思います。

今まで色々意見が出ておりますが、ほかに何かご発言いかがでしょうか。

○佐藤構成員

私は、分野別要素「交流」の KPI について発言させていただきます。こちらの KPI 案「堺市は地域行事（まつり、清掃活動、交流イベント等）や防犯、防災に関する取組など、地域でのさまざまな活動が活発な都市だと思いますか。」という質問や、「歴史文化」の分野でのイベントの参加者数など、色々な質問に関して、イベントの活動内容や頻度より、そのイベントをいかに市民の方に知っていただくかという情報発信がより重要になると思います。

伊藤構成員がおっしゃっていた地域のお祭りや、私も青色パトロールカーでの活動をしています。そういった防災活動など、中区を良くするための魅力的な活動が既に色々なところで行われています。そのような活動をより多くの市民の方に知っていただき、効果的に活動していくためには、情報発信が重要になると考えています。

骨子案にはめざす将来像を構成する 3 つの基本要素として、「安心・魅力・活力」とありますが、その 3 つを達成するためにも、広報活動の現状を把握し、より具体的な目標を立てていくことが重要だと考えています。この 7 つの分野別要素に加えて、どのように広報が行われているかを定量的に把握するための目標を設定していくべきだと考えていますが、いかがでしょうか、意見をいただけたらと思います。

○森田座長

他の項目もそうですが、定量指標というのは結果としての数と何かアクションを起こす数の 2 つあるべきだと思います。今おっしゃったのは、何かアクションを起こす数ですので、これはアクションする実際の事業実施のところでどう評価するかということを別途お考えいただければと思います。

それでは、まだ発言されていない方がいらっしゃいましたら発言していただいてもいいでしょうか。

○山崎構成員

下宿生の立場からすると、正直、地域の自治会や防災についての話は眼中にないという表現が適切になるのではないかと学生も少なくないように感じます。そういう中で、新しく水質池公園の整備をすることは、地域に目を向ける一つの大きなきっかけになるのではないかと感じています。そのためにも、どのように情報を届けていくかという観点は、非常に重要だと思います。今後も、様々な世代の方と交流し、共有しながら話を進めていけたらいいのではないかなと思います。

○森田座長

はい、ありがとうございます。

では、発言されていない方で西條構成員、よろしければご発言をお願いします。

○西條構成員

分野別要素「福祉」について、KPI 案に高齢者総合相談件数とあり、高齢者に目を向けていますが、福祉分野には障害者やその他の方も支援の対象になるかと思いついて、高齢者以外の福祉支援を受けられる方に焦点を向けるのもいいのではないかと思います。

○森田座長

なるほど、そうですね。そのあたりの数は簡単に把握できるものでしょうか。事務局に聞かないと分からないかも知れません。

○事務局（大橋）

はい、補足説明いたします。例えば、介護保険のサービスをどう利用したかなどの把握は可能であると担当課に確認しております。

その中で、計画案の指標としては相談件数を事務局から提案させていただいていますが、介護保険サービスなど個別の事業で数値がどう向上したかを見ていくかについては、先ほどからの子育ての分野でもご意見を頂戴していることも併せて、次年度以降に具体的な取組を行うに当たって、今後の検討とさせていただきます。

○森田座長

はい、分かりました。ありがとうございます。また今後検討していただければと思います。

次は、武内構成員をお願いします。

○武内構成員

分野別要素「安全」に関して、「災害に強く」や「治安に関する不安が少ない」という項目の数値が、私

にとっては結構高い数値だという印象を受けました。

私も下宿で中区に住んでいますが、防災に関しては自分で情報を得ようと思わないと情報が入ってこないとすごく感じています。

大学生も含めて、地域に暮らす一人暮らしの若者などの世代でも、先ほどおっしゃっていた防災のイベントなどに参加できれば、災害が本当に起きた時に子どもがいる家庭や高齢者がいる家庭では動けない部分でも、若者が動ける部分があるのではないかと思います。自治会加入率とは別のベクトルにはなりませんが、若者に対する情報発信についてこれから考えていくべきであると思いました。

○森田座長

先ほどから情報発信の意見が複数出ていますので、今後の取組の方で色々考えていただければと思います。

では、最後に足立構成員、ご発言をお願いします。

○足立構成員

水賀池公園の整備は町おこしと言いますか、色々な方に中区の良さを知っていただくことが目的であると思われ、それもちろん大事ですが、元から地域に暮らしている方々への配慮も必要ではないかと思いました。

○森田座長

ありがとうございました。これで全ての方にご発言いただいたと思いますが、目標値について追加でご意見はありますか。

○巽構成員

分野別要素「交流」の自治会加入率について、他の指標は改善した目標値になっていますが、この指標だけ現状値以上となっている理由があれば教えてください。

○森田座長

指標については、どのような目標値とするか難しいところがあると思います。例えば、他自治体の平均値を目標値としてはどうかという話もあると思いますが、比較する自治体はどこがいいのか、全国の平均とは一体何なのかを考えますと難しいこともあると感じます。全国的に見て、自治会加入率は低下傾向であると思いますので、例えば 50%や 80%という明確な目標値の設定が難しいのではないかと感じます。今回初めて目標値を設定して経過を見るということで、まずは現状維持を想定しており、現状値が 33.6%だからといって、それに甘んじる必要はないと思います。最終的な目標値は当然 100%ですが、そこまでいかなくとも、例えば 60%ぐらいを当面の目標とするのであれば、それをめざしつつ、5 年でどこまで上げられるかを考えていくべきかと思います。このあたりは、また今後考えさせていただければと思っています。そういった意味もあり、現状値以上という目標設定になっているのではないのでしょうか。

○巽構成員

ご提案ですが、自治会加入率は定量的に見ていきつつ、自治会について知ってもらうためのイベントを

されていると先ほどお聞きもしましたので、数値としては、イベントの開催回数や参加者数などを見ていくことで他分野の KPI とともレベル感を合わせることもできるのではないかと思います。

○森田座長

どのイベントまで含めるべきかという議論もあります。定点的に観測できるようなイベント、例えば「歴史文化」では注染イベントは毎年行っており、そういうものを何か決めて人数をカウントしていくことは将来的には良いのではないかと思いますので、ぜひ今後ご検討いただければと思います。

○松居構成員

自治会の話が出ましたので少しヒントになるのではないかと思います。資料 3 のアンケート結果の 15、16 ページでは「あなたは自治会に加入していますか。」や、「あなたは地域活動やボランティア活動(自治会活動を除く)に参加していますか。」と質問があります。個人的には、自治会活動と自主的にボランティア団体に所属して取り組んでいる地域活動のそれぞれが大事であり、両輪でもあると思います。自治会に入っている、入っていないにかかわらず、地域のために活動している人がどれぐらいいるのかという視点で見ると、地域の交流が活発になっているかを測ることができると思います。

先ほど狩野構成員から活動団体の活動数について話がありましたが、例えば、中区内に事務所を構える NPO 法人団体の数や、社会福祉協議会に登録しているボランティア団体の数、中區で子育てサロンを開いている団体の数、こども食堂を開いている団体の数など、ある程度把握できるものもあると思います。そのような数値を見ることで、地域の活動がどう盛り上がっているかを一定測ることもできるのではないかと思います。

○森田座長

そのご意見につきましても、今後の課題として整理しつつ、取り入れていただければと思います。他に数値で何かご意見はございませんか。大丈夫ですか。皆様、よろしいですか。

それでは、本日は構成員の皆様から活発なご意見いただき、誠にありがとうございました。事務局におかれましては、構成員の皆様の今後の計画策定に活かさせていただきますようお願いいたします。

本日の議案は全て終了いたしました。本日の議案、あるいはそれ以外に何かご意見、ご質問はありますでしょうか。もし、議案内容に対する意見や不明な点がございましたら、遠慮なく議事局に申し出ていただければと思います。

4 閉会

○司会（大橋）

皆様、活発なご意見の交換、ご提案をいただき、誠にありがとうございました。閉会に当たりまして、中區長よりご挨拶を申し上げます。

○区長（伊藤）

本日は皆様、長時間にわたり、活発なご議論をいただきまして、誠にありがとうございました。大変貴重なご意見をたくさん頂きました。皆様から頂いたご意見を参考にしながら、次期計画案策定に向けて進めてまいります。皆様には引き続きのご理解、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。改めまして、本日は誠にありがとうございました。

○司会（大橋）

それでは以上をもちまして、令和 7 年度第 2 回堺市中区政策会議を閉会いたします。構成員の皆様におかれましては、会議の開催に当たりご協力いただきまして、誠にありがとうございました。